



第5章 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

加藤, 明恵
吉川, 圭太
井上, 舞

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 20 (2021 (令和3) 年度事業報告書) :65-70

(Issue Date)

2022-03-28

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013441>



第5章

地域連携センターを拠点とするプロジェクト

科学研究費補助金「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者:奥村弘、課題番号:19H05457)

本研究は、地域歴史資料学の成果を踏まえ、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害等により危機に瀕している日本の地域存続の基盤となる、新たな地域歴史文化創成のための実践的研究領域を確立することを目的としている。具体的には、①地域住民を軸とする地域歴史資料と地域歴史文化の未来への継承方法の確立、②地域歴史文化創成に資するデータの国際標準構築と全国的データインフラストラクチャー構築、③大災害が連続する日本列島において、地域歴史文化は災害の記憶を蓄積する文化を内包させてきたことを踏まえ、地域歴史文化創成の基礎となる新たな地域社会形成史の通史的提示を行う。

またその中で、災害事象等についての歴史的データの発見、確度の向上をはかり、減災研究にも寄与すること、さらに地域社会において同様な課題を持つ世界各地の研究者間の課題共有をはかり、国際的な学術研究プラットフォーム形成を進めることを目指している。

本学人文学研究科地域連携センターは、本研究の実践・研究のための拠点施設に位置付いている。2021年度はかかる目的のために以下の研究活動を展開した。なお、ポーランドにおいて開催が予定されていた国際歴史学会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により2022年まで延期となった。この他のフォーラム・研究会等についても、同様の理由で実施方法を見直す必要が生じたこと

に加え、被災史料処置・史料整理等の実践的研究の遂行が困難となった。

1. 地域歴史文化フォーラム愛媛「安政・昭和南海地震の新研究」の開催

本研究では、地域が持つ過去から未来へ向けて持続的に文化を継承していく場としての具体的な機能に着目し、記憶・記録を未来に引き継いでいく文化とはいかなるものであるのかという問いを地域を介して具体的に問う中で、地域歴史文化フォーラムを毎年度開催し、地域歴史文化の創生に関する取り組みや課題について、全国各地の事例をもとに議論することとしている。2021年度は、将来起こりうる南海トラフ地震に向き合い、災害に強い地域社会づくりのために歴史学・民族学がいかにかわっていくことができるのかを検討するため、四国四県の南海地震の研究を総括し、議論を進めた。

日時:2021年11月27日(土)13:30~17:00
会場:愛媛大学総合情報メディアセンター/

Zoomを用いたオンライン開催

報告:

- ① 大本敬久(愛媛県歴史文化博物館専門学芸員/愛媛資料ネット)「昭和南海地震による被害状況と地域差」
- ② 水松啓太(高知城歴史博物館学芸員)「高知県における安政・昭和南海地震の災害継承について」
- ③ 川邊優佑(香川県立ミュージアム学芸員/香川歴史学会)「安政地震による讃岐国の被害について」
- ④ 町田哲(鳴門教育大学准教授/徳島史料ネッ

ト)「宝永地震と安政地震を経験した村」

- ⑤ シンポジウム コーディネーター：胡光（愛媛大学／愛媛資料ネット）

主催：推進科研「地域歴史資料学を基軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」グループ、愛媛資料ネット

共催：えひめ文化財等防災ネットワーク、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター

2. 「地域歴史資料継承領域」研究会の開催

第2回研究会「被災文化財を通じた地域文化の継承モデル—博物館の視点から—」

日時：2021年5月1日 13:00～

開催方法：オンライン公開（登録者のみ）

主催：特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」（代表 奥村弘）A班「地域歴史資料継承領域」、人間文化研究機構広領域型基幹研究「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」（代表 日高真吾）

共催：人間文化研究機構広領域型基幹研究「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」

報告：

- 日高真吾（国立民族学博物館）「特別展「復興を支える地域の文化—3.11から10年」の概要と展示の狙い」、「能登半島地震で被災した明泉寺台燈籠の修復を通じた地域文化の継承」
- 寺村裕史（国立民族学博物館）「津波の記憶をつなぐ文化遺産—寺社・石碑DBの概要」和高智美（合同会社文化創造巧芸）・日高真吾（国立民族学博物館）「津波の記憶をつなぐ文化遺産—寺社・石碑DBの登録方法について」
- 関谷久之（十日町市古文書整理ボランティア）「中越地震で救出された古文書から発見した史料を活用した地域史研究—市民と研究者の協働を通して—」

○ 末森薫（国立民族学博物館）「保存科学の技術を利用した被災古文書解読の支援」

○ 橋本沙知（国立民族学博物館）「中越地震で被災した染め見本の保存活動の支援」

○ 河村友佳子（国立民族学博物館）「救出された写真資料に見る十日町の織物文化」

○ 総合討論 コーディネーター：川村清志（国立歴史民俗博物館）

第3回研究会「「統合型」博物館と住民参加—阪神間の事例—」

日時：2021年7月4日 13:00～17:00

開催方法：オンライン開催

後援：兵庫県博物館協会

報告：

- 岩城卓二（京都大学人文科学研究所）「「市民のために」の挫折と成熟」
- 中畔明日香（伊丹市教育委員会生涯学習部）「地域と共に学び、歴史遺産を活かす」
- 河野未央（尼崎市教育委員会社会教育部）「市民と共にあゆむ博物館「である」ために—アーカイブズができることとは？」
- コメント：大国正美（神戸深江生活文化史料館館長・伊丹市資料修史等専門委員長）「地域で生きる博物館に向けて」
- 総合討論 コーディネーター：松下正和（神戸大学）・吉原大志（兵庫県立歴史博物館）

第4回研究会「「家」「すまい」の現在を考える—地域歴史遺産の「器」の現在—」

日時：2021年8月21日 13:00～17:00

開催方法：オンライン開催

報告：

- 平山洋介（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）「住宅事情の現在をどう読むか—空き家、老朽、相続などに着目して—」
- やまだのりこ（あとりいえ。代表）「おくりいえプロジェクト 家を送るから贈るへ」
- 藤木透（佐用町教育委員会教育課企画総務

室)「2009年佐用町水害とその後の「まち」

- 質疑応答・討論 コーディネーター：市沢哲・松下正和(神戸大学)

第5回研究会「歴史教育と地域社会—地域歴史資料の「活用」のあり方—

日時：2021年11月23日 13:00～16:00

開催方法：オンライン開催

報告：

- 百濟正人(兵庫県立御影高等学校)「地域連携から考える高等学校歴史教育について—地域歴史資料の活用と課題—」
- 生駒佳也(四国大学非常勤講師/元徳島市立高校当学校教諭)「博学連携・高大連携を通じた歴史教育の実践について」
- 吉嶺茂樹(北海道有朋高等学校)「北方史から世界史を考えるために—いくつかのケーススタディー—」
- 総合討論 コーディネーター：小野塚航一・松下正和(神戸大学)

第6回研究会「震災後のふくしまの新たな取り組みに学ぶ」

日時：2021年12月11日 13:30～16:30

開催方法：オンライン開催

後援：ふくしま歴史資料保存ネットワーク

報告：

- 西村慎太郎(国文学研究資料館)「福島県原子力災害被災地域の歴史資料保全と大字誌」
- 小林めぐみ(福島県立博物館)「地域と小学校とミュージアムライフ—ミュージアムネットワーク2020の浪江町立津島小学校との協働から」
- 質疑応答・意見交換 コーディネーター：阿部浩一

第7回研究会「地域と専門知をつなぐ」

日時：2022年1月8日 14:00～17:15

開催方法：オンライン開催

主催：特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(代表：奥村弘)、国立歴史民俗博物館「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」

共催：科学研究費基盤研究A「恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築」(代表：松井敏也)

報告：

- 天野真志(国立歴史民俗博物館)「資料保存の実務をめぐるコミュニケーション」
- 中尾真梨子(福島県文化財センター白河館)「福島県における文化財保存科学の役割」
- 栗田昇・鈴木映梨香・三井百合子・森多毅夫(ながはくパートナー文化財保存グループ)、原田和彦(長野市立博物館)、山中さゆり(真田宝物館)「ボランティアと専門家の対話」
- 総合討論 司会：河野未央(尼崎市立歴史博物館)

第8回研究会「被災文化財の保存と活用のあり方を考える」(2021年度第2回文化財保存修復学会公開シンポジウム)

日時：2022年2月13日 13:00～

開催方法：オンライン開催

主催：文化財保存修復学会・国立民族学博物館

共催：特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(代表：奥村弘)A班「地域歴史資料継承領域」

後援：日本文化財科学会・国宝修理装演師連盟・国立文化財機構文化財防災センター

基調講演：

門馬健(富岡町生涯学習課)「資料レスキューから生まれた博物館～とみおかアーカイブ・ミュージアムの活動と課題」

報告：

- 中尾真梨子(福島県文化財センター白河館)「福島県富岡町津波被災パトカーの保存修復事例」
- 和高智美(合同会社文化創造巧芸)「岩手県釜石市唐丹町「明治三陸大海嘯記念之碑」の保存修復事例」
- 渡邊真吾(東北古典彫刻修復研究所)「宮城県石巻市釜谷地区の獅子頭の保存修復事例」
- パネルディスカッション「被災文化財の保存の活用の在り方を考える」コーディネーター：間瀬創(国立文化財機構)

3. 「災害文化と地域社会形成史」研究会の開催

主催はいずれも特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(代表：奥村弘)C班「災害文化を内包した地域社会形成史研究領域」、岡山大学文明動態学研究所

第10回研究会「火山噴火と地域社会」

日時：2021年5月15日 13:30～16:30

開催方法：オンライン開催

報告：

- 若狭徹(明治大学)「群馬県金井東裏遺跡1号男性の研究—榛名山の噴火と毛野の地域社会—」
- 大隅清陽(山梨大学)「文献からみた貞観噴火—富士山と古代社会—」

第11回研究会「日本近現代社会運動史と資料保存」

日時：2021年7月25日 13:30～17:00

開催方法：オンライン開催

：報告

- 相川陽一(長野大学)「北総地域の近現代史における開発と社会紛争の展開—運動史研究と資料保存の交点を探る—」
- 吉川圭太(神戸大学)「伊方原発反対運動資料の保存整理と運動史研究」

第12回研究会「災害史研究・歴史学研究と一枚摺・チラシ・絵葉書・コレクション・コレクター」

日時：2021年9月4日 13:30～17:00

開催方法：オンライン開催

報告：

- 矢田俊文(新潟大学人文社会科学系フェロー)「災害史研究と一枚摺—近世の地震とコレラー」
- 田中洋史(長岡市立中央図書館文書資料室)「長岡市災害復興文庫の個人収集資料—新潟県中越地震コレクター蒐集資料・東日本大震災避難所資料—」
- 田辺幹(新潟県立歴史博物館)「絵葉書と歴史資料—新潟県の絵葉書コレクションを事例として—」

第13回研究会「岡山県高梁川流域の災害と地域社会」

日時：2021年11月28日 13:00～17:00

開催方法：オンライン開催

報告：

- 倉地克直(岡山大学)「明治二年東高梁川洪水と地域社会」
- 畑和良(倉敷市)「真備町域における江戸時代～明治初年の水害治水史」
- 山下洋(倉敷市)「明治一三年の高梁川水害について」

第14回研究会「災害・疫病と地域社会」

日時：2022年1月22日 13:30～17:00

開催方法：オンライン開催

報告：

- 寺内浩(愛媛大学)「古代の飢饉・疫病と地域社会」
- 中川未来(愛媛大学)「近代の疫病と四国遍路」

4. European Commission“Innovation in Cultural Heritage Research-For an integrated European

Research Policy”の翻訳・研究

2021年度は、2020年度に翻訳・研究を進めた、欧州委員会の作成による報告書”Innovation in Cultural Heritage Research-For an integrated European Research Policy”（2018年）（仮訳「文化遺産研究の最前線—統合的応酬研究政策のために」）についてさらに議論を深めた。報告書執筆者の一人であるガーボル・シヨンコイ氏（ハンガリー・エルテ大学）に、報告書翻訳にかかる疑問点等について書面にて質問し、回答を得た。また、2021年10月20日に、シヨンコイ氏とオンライン研究会を実施し、報告書の疑問点・論点について討論を行った（参加者：奥村弘、内田俊秀、根本峻瑠、市原晋平、加藤明恵）。2021年度末に、研究会の成果をふまえた報告書を発行する予定である。

5. 関連行事の共催・協力等

- 2021年度兵庫県文化遺産防災研修会に協力した（2021年10月22日、オンライン開催、主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、兵庫県教育委員会）。
- 2021年度地域歴史文化大学フォーラムを共催した（2021年12月5日、オンライン開催、主催：人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」）。
- 第20回歴史文化をめぐる地域連携協議会を共催した（2022年1月29日、オンライン開催、主催：神戸大学大学院人文学研究科、同地域連携センター）。
- 第3回歴史文化資料保全西日本大学協議会に協力した（2022年2月6日、オンライン開催、主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」）。
- 第8回全国史料ネット研究交流集會を共催した（2022年2月19日・20日、オンライン開催、主催：第8回全国史料ネット研究交流集會実行委員会、人間文化研究

機構「歴史文化資料の大学・共同利用機関ネットワーク事業」）。

- 第11回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会を共催した（2022年2月14日、オンライン開催、主催：震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費「災害資料学の実践的研究—阪神・淡路大震災の知見を基礎として—」（研究代表者・奥村弘）、阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会、神戸大学附属図書館）。

（文責・加藤明恵）

歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

2018年1月、神戸大学・東北大学・人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）の三者で「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（略称：歴史資料保全NW事業）についての連携協定が締結された。この事業は、歴史文化資料保全及びそのための全国的な相互支援体制の構築、資料保全を担う人材の育成・教育プログラムの研究、地域の歴史文化の継承にかかわる大学の機能強化を主な目的としている。本センターは、中心3拠点の一つである神戸大学大学院人文学研究科が推進する事業の基盤機関である。

本年度は全国広域ネットワーク形成と地域連携モデルの構築にかかわる協議会・研究会等を下記の通り行った。

- 10月22日「兵庫県文化財防災研修会」への協力（オンライン開催）

自治体の文化財担当職員・学芸員らを対象に、歴史文化資料の防災ならびに災害時史料レスキューに関する講義を行い、文化財防災上の課題について共有を図った。

- 12月5日「地域歴史文化大学フォーラム～地域歴史文化の継承と大学教育神戸大学

の取り組みから～」の主催（神戸大学人文学研究科共催、オンライン開催）

神戸大学で展開している歴史と文化に関わる教育プログラム（全学共通科目・専門科目）の実践例を通して、地域歴史文化の継承と大学教育のあり方について議論した。48名参加。

- 1月29日「第20回歴史文化をめぐる地域連携協議会」の共催（オンライン開催）
- 2月6日「第3回歴史文化資料保全西日本大学協議会」の主催（オンライン開催）

中四国における地域資料保全の取り組みや新たなネットワークの動きを中心に協議し、災害対策に留まらない多様な歴史文化資料の保全・継承をめぐる連携体制のあり方、ネットワークの持続的展開に向けて議論した。17機関36名参加。
- 2月14日「第11回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」の共催（オンライン開催）

阪神・淡路大震災以降の震災資料保存機関の全国的なネットワーク形成のため、東日本大震災等の震災資料保存・活用に関する方法論の共有と連携関係の強化をはかった。16機関33名参加。
- 2月19・20日「第8回全国史料ネット研究交流集会・山陰」の主催（オンライン開催）

このほか、愛媛大学・愛媛資料ネット・国立歴史民俗博物館等と共同で進めている伊方原発関係資料の保存・整理作業については、前年度に引き続き電子化データをもとに目録作成を進めたほか、資料の保存措置を講じた。また、附属図書館震災文庫等と連携協力し、阪神・淡路大震災資料の整理・公開等について協議した。

（文責・吉川圭太）

大学発アーバンイノベーション神戸

1. 「神戸市域に所在する文書群の調査・活用・公開に関する研究」、研究代表者：井上舞、研究分担者3名、研究補助者2名

本研究では、今年度以下のような活動を行った。

① 市内歴史資料の所在調査

神戸市北区を中心に、歴史資料の所在確認調査を実施した。調査日は、9月28日・10月4日・28日・12月1日・3日・20日・1月11日・30日であった。コロナ禍のため、調査の回数、規模が限定され、目録作成やデジタル化などは進められなかったが、新出資料も含め、多くの歴史資料の所在確認を行うことができた。また、12月20日は、井上舞・加藤明恵の両名で下張り文書の調査を行い、地域住民も交えたワークショップを開催した。

② 学内所蔵資料の調査

研究分担者の木村修二が、人文学研究科古文書室架蔵の淡河北僧尾村文書の目録作成に、また松本充弘が神戸大学附属図書館所蔵の摂津国八部郡花熊村庄屋村上家文書の資料翻刻にそれぞれ取り組んだ。

（文責・井上舞）

2. 「灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究」、研究代表者：加藤明恵、研究補助者：古市晃住吉歴史資料館（東灘区）寄託の吉田家関係資料について、仮目録を作成した。また、2021年4月には神戸市立博物館において住吉良運商社文書の調査を行い、吉田家の文化活動に関する書状等の翻刻を進めた。

（文責・加藤明恵）